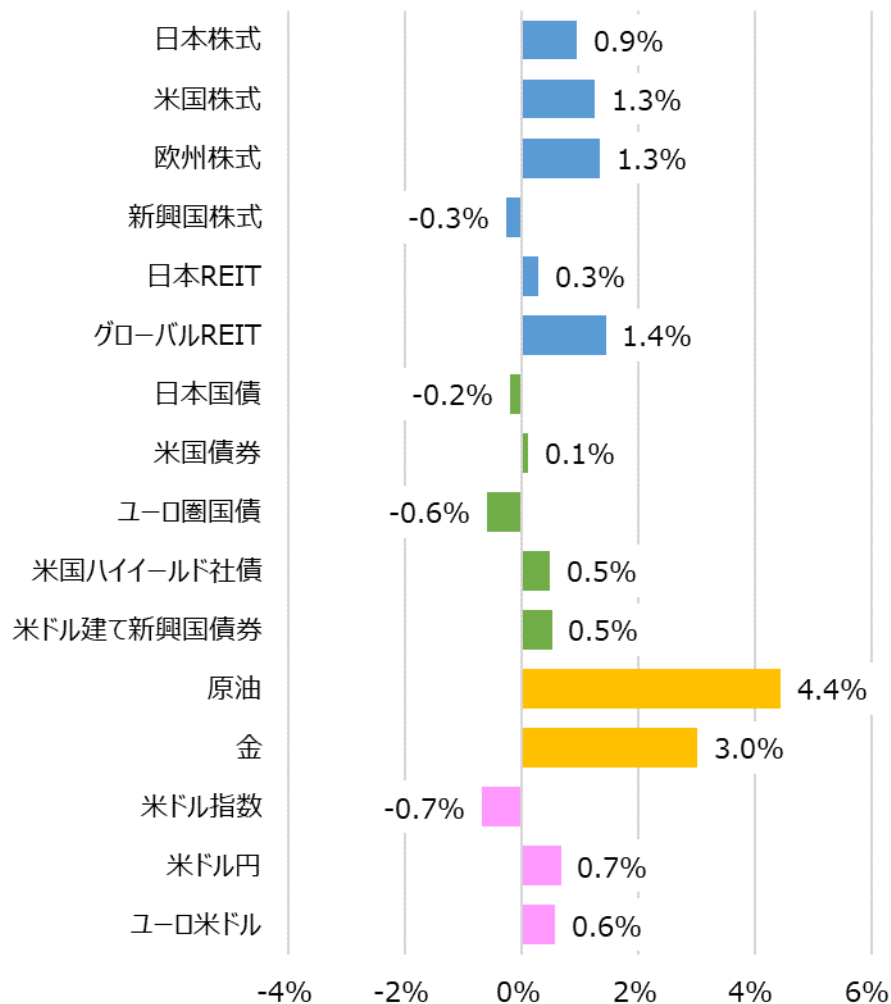


Weekly Market Review

期間：2021年4月26日～2021年5月7日



【日本株式】

高い業績期待が株価に織り込まれていた**グロース系の銘柄が材料出尽くしで利益確定売り**に押されるなど、上値追いの気運は高まりませんでした。米モデルナ製ワクチンが21日にも承認される見通しと伝わったことなどが投資家心理を上向かせる場面もありましたが、緊急事態宣言の延長観測などが上値を抑えました。

【米国株式】

ダウ工業株30種平均株価とS&P500種株価指数は最高値を更新しました。一方、イエレン財務長官が景気過熱を防ぐためには小幅な金利上昇が必要と発言したことで**割高感が意識されやすいハイテク株は軟調**でした。7日発表の雇用統計では非農業部門雇用者数が大幅に予想を下回り、失業率も悪化しましたが、米景気への楽観は後退しませんでした。**2021年1-3月期実質GDP速報値が前期比年率6.4%増**となったことや、複数州が行動規制の緩和や撤廃に動いていることも市場心理を強気に傾けました。

【欧州株式】

STOXX Europe 600種株価指数は最高値を更新しました。域内大手銀行の決算発表が総じて良好な内容だったことから**金融セクターが牽引役**でした。国別では中央銀行が**2021年の経済成長率を大幅に上方修正した英国**の貢献度が高くなりました。ユーロ圏の1-3月期実質GDP速報値は前期比で2四半期連続の縮小となりましたが、欧州委員会がワクチン接種者のEUへの来航制限を緩和するよう勧告したことで景気回復への期待が維持されました。

【新興国株式】

中国株が芽えない一方、インド株がリターンに貢献しました。中国では、金融当局が金融サービスを手掛けるインターネット企業に監督や是正措置の受け入れを要求し、政府の締め付けが一層強まるとの見方から**主力ハイテク株が売られました**。一方、感染拡大に歯止めがかからないインドでは、首都圏の封鎖措置が延長されましたが、**米国や英国、EUなどが治療やワクチン普及に関連する支援を表明**し、パンデミック収束への期待が高まりました。

【日本REIT】

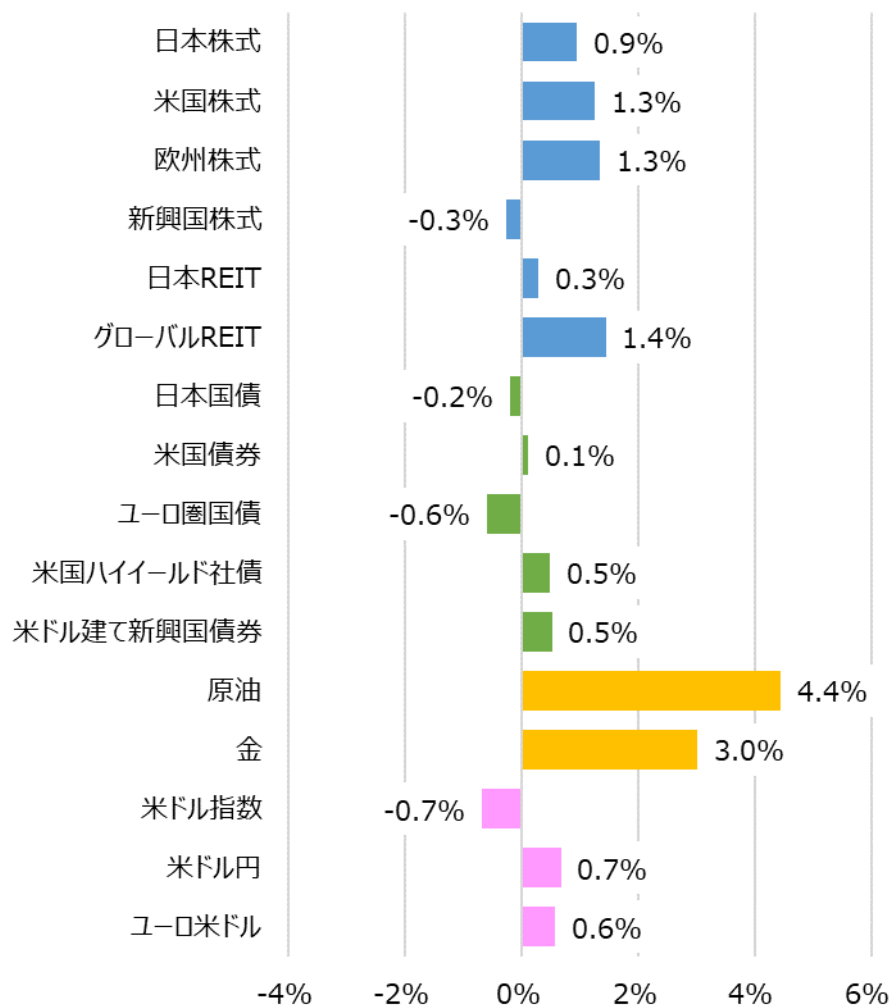
利益確定売りに押され、上値が重くなりました。緊急事態宣言の延長見通しにもかかわらず**リテールREITが堅調**でした。一方、物流REITが芽えないパフォーマンスでした。

【グローバルREIT】

米国の他、カナダ、英国、フランスなどが堅調でした。**米国内用途別ではリテールREIT**などを中心に幅広く上昇しました。米ドル安も米ドル建て指数を押し上げる一因となりました。

Weekly Market Review

期間：2021年4月26日～2021年5月7日



【日本国債】

日銀政策決定会合では政策維持が決定され、2021年度の物価見通しが下方修正されましたが、市場では**想定通りの内容**と受け止められました。来週以降に大規模な国債入札を控えていることも需給悪化懸念に繋がりました。

【米国債券】

バイデン政権が公表した「米国家族計画」の財源としての増税策実現のハードルは高く、**国債増発で賄われるとの観測**などが売り材料視されましたが、ISM製造業・非製造業景況感指数がともに前月から悪化するなど弱い経済指標が相場を支えました。パウエルFRB議長がFOMC後の会見で、経済と雇用の完全な回復には遠く、物価上昇は一時的で量的緩和縮小の議論は時期尚早との見解を示したことも**緩和政策の長期化観測**に繋がりました。

【ユーロ圏国債】

イタリアの追加経済対策に伴う国債増発観測などから特に**周辺国債が軟調**でした。ドイツの消費者物価指数の伸びが加速したことや、ECB理事会メンバーのラトビア中銀総裁が**資産購入ペースの減速に言及**したことも資金流出を促す一因となりました。

【米国ハイールド社債】

米国株式市場が堅調だったことで**クレジットスプレッドが小幅に縮小**し、堅調でした。エネルギーや消費関連セクターの貢献度が高くなりました。

【新興国債券（米ドル建て）】

基準となる米国債利回りはほぼ変わらずでしたが、**クレジットスプレッドが縮小**しました。中央銀行が2会合連続で政策金利を据え置き、インフレ抑制に注力する姿勢を見せたトルコやブラジル、スリランカなどがリターンに貢献しました。

【コモディティ（金・原油）】

金は、**米個人消費支出物価指数の伸びが加速**したことで市場の予想インフレ率が上昇し、**実質金利が大幅に低下**したことで堅調でした。FRBが金融安定性報告書でリスク資産のバリュエーションが高水準にあると警告を発したことも安全資産需要を増大させました。原油は、OPECプラス会合で原油需要の回復見通しが示されたことや、欧米の行動規制緩和などから需給の引き締まりが意識されました。

【米ドル指数】

ロンドン銅先物が史上最高値を更新するなど**国際商品市況が堅調**だったことから、資源国や新興国通貨が対米ドルで買われました。逃避需要の減退から円は対米ドルで下落しました。

当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてPayPayアセットマネジメント株式会社※が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

※2021年3月8日付で商号を「アストマックス投信投資顧問株式会社」から変更いたしました。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。また、新興国通貨とはMSCI新興国通貨指数（対米ドル）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：S&P GSCI原油エクセスリターン指数（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ